

最近の円安とインフレ

「インフレ」と「デフレ」という言葉はみなさん聞いたことがあると思いますが、今の日本はどういう状況で最近の円安は何が原因なのか、そして金融政策は何が狙いでどのようなことを行なっているのか、というのは関心があっても理解するのは難しそうだと思う人もいるかもしれません。ニュースで見ているだけでは具体的な内容が分からないという方は今回の FP 通信をぜひご一読ください。

・良いインフレと悪いインフレ

インフレは物価水準が持続的に上昇することを指しますが、需要サイドの購買意欲の高まりによる良いインフレ（ダイヤモンド・プル・インフレ）と、原材料価格高騰による供給サイドへの負担増加に起因する悪いインフレ（コスト・プッシュ・インフレ）に分けられます。

良いインフレであれば景気の上昇に伴い、物価の上昇、そして賃金が上がることでさらなる景気の上昇が見込まれるという良い循環が生まれます。そしてこのような良い循環の起きている国では通貨価値が高まって輸入品が安く手に入ります。また、優秀な人材が集まってきますし、国際競争力も同時に高まります。一方で悪いインフレが進むと輸入コストが上昇し、物価が高くなって物が売れにくくなります。すると不況になって給料も上がらなくなります。その間に諸外国でもインフレが起きているとさらに輸入コストが上昇して・・・と負のスパイラルが出来上がってしまいます。このスパイラルが起きている国では国際競争力・購買力が低下し、通貨価値が下落します。すると土地や企業、人材、資本が安くなってしまい外国人や外国企業に買われてしまいます。

・日本の現在地と金融政策

円の通貨としての価値は、円が最高値だった 2011 年の 1 ドル=75 円だったときに比べると半分ほどになってしまいました。円安がここまで進んでいる一番の原因は、アメリカとの金利差です。アメリカはインフレを抑え込むために利上げをしています。日本は長期金利をほぼ 0%にしています。投資において金利のつく通貨は儲けが大きいとドル買いの動きが強まり、円安が進みました。

また、世界で起きている紛争は供給サイドのコスト増加と「有事のドル買い」（戦争等が起きたときは流動性のあるドルを買っておけば安心であるという経験則）を引き起こし、円安をさらに後押しすることとなりました。

長らくデフレだった日本は 2%のインフレ目標を掲げて金融政策を進めていて、良いインフレに転じるよう図っています。ただ、最近の供給サイドに起因する悪いインフレと円安の影響で負のスパイラルが起ころうとしていて、物価上昇に応じた分を賃上げで負担軽減しようとしていますがその効果を感じている人は少ないと思われます。

【小板橋の視点】

インフレ時の資産運用としては、物価上昇以上の運用を目指し、資産は株や不動産、外貨等に資産分散することを心がけましょう。逆にデフレ時の資産運用は現金比率を増やし、投資する場合も債券等の資産にしておくことで無理なリスクを取らずに済むので覚えておくことで役立つことがあると思います。

株式会社 FREE PEACE

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビルディング 15 階

TEL : 03-6258-1131 FAX : 03-6258-1132 URL : <http://free-peace.co.jp>

2011 年 4 月より活動を開始し、皆様のお陰で現在では年間 組を超える住宅購入相談実績をもつ企業に成長致しました。今後もお客様をサポートする最良のパートナーである事を約束します！！